審査結果の要旨

論文提出者氏名　　曹　文 燕

都市における高齢者のための生活行動空間に関する研究
-中国北方大都市におけるケーススタディ-

この論文は高齢化社会に対応する居住環境の整備が急務となりつつある中国の都市部において、高齢者の環境とその利用行動との相互関係を分析・考察することによって、生活行動空間の形成を支える要素を明らかにし、今後の中国における都市発展に伴う高齢者ニーズに対応した都市空間のあり方を提案することを目的としている。

論文は序章、終章を含めて六つの章から構成される。

序章では、研究の背景、目的と方法、特色といった基本的な考え方を述べている。

第一章では、分析の前提となる調査と調査対象の概要について述べている。

第二章では、時間の経過とともに展開される一日の生活の流れを、コミュニティのprivate領域からsemi-private, semi-public, そしてpublic領域までの空間的広がりにおいてマクロな視点から連続的に捉え、分析・考察している。

高齢者の心身能力、生活背景や性格により諸領域に対する接し方が異なるため、高齢者の日常生活行動を取り巻く諸領域の構成の仕方を見直す必要性が明らかになった。つまり、必ずしもprivate領域からpublic領域の順に展開するわけではなく、個人の多様な行動領域に対応して、多様な展開が可能な空間領域の構成を考慮すべきことを示唆している。

次に、外出行動は日常的な余暇的生活行動として、また外界との接触あるいは健康保持のために行われていること、それを反映して外出可能な多くの高齢者がパブリックな都市空間を日常的行動あるいは社会交流の場として求めており、その行動圏・場所分布では、500m～1km圏内に集中的していることが明らかにしている。

さらに、窓際・ベランダ・屋上テラス、そして「老年公寓」（老人ホームの通称）の庭など住居における外部と接触する空間・場所の利用実態の分析・考察を通して、これらの場所は行動能力の低下した高齢者にとって、社会との接触に欠かせない空間媒体であり、日常的な居場

所となっているにもかかわらず、物的環境上の制約から利用や行動が制限される実態を明らかにしている。 また行動能力と居住形態の差違による都市空間との関わり方の相違、「老年公寓」の立地の差異による地域社会や家族との関係、外出行動の相違について論じている。

第三章では、高齢者の日常生活の場として利用される集合住宅と周辺を対象に、屋外生活行動のビデオ撮影記録を通して、都市空間内の居場所とその使われ方を生態心理学の「行動場面」の方法を参考してミクロな視点から、分析・考察を行っている。

主に滞在的行動と余暇的行動に分けられる屋外空間での生活行動として「公共の中での一人」「交流目的の集まり」「他者との居合わせ」「趣味目的の集まり」「家族を伴っての利用」「家事行為を含む利用」「一時的滞在」といった多様な居方を挙げており、社会的コンタクトが居場所の形成に与える役割を論じている。

第四章では、第二章と第三章の考察に基づき総括的な考察を行っている。
まず、「行動内容の余暇性と生活性」「場所利用の滞在性と日常性」「地域での居場所の定着」「行動の個人性と社会性」「屋外生活行動の必然性」という都市空間との関わりにおける特性を指摘し、都市における生活行動空間の形成を支える要素を、「社会生活と人間関係」「構築環境の質」「目的地へのアクセスしやすさ」「高齢者の都市空間に対する認識」そして「住居の持つ意味」の五つの側面から論じている。

終章では、以上の各章のまとめを行っている。
まず、住居周辺の地域空間は高齢者の日常的・生活的・余暇的・社会的場であるという都市空間の位置づけと意味を明らかにしている。高齢者と都市との関わり方の形成要因には、物理的環境の適切さと文化・伝統の背景以外に、外部とのコミュニケーションを求めたいという高齢者側の社会的・心理的ニーズがあり、今後この観点から、高齢者のための都市空間のあり方を見直すことが必要となることを指摘している。さらに、本研究から得られた知見に基づき、中国の都市高齢者の日常生活行動に対して適切に対応する都市空間計画について提言を試み、今後継続すべき研究の課題を提示している。

以上のように、本研究はの中国北部の大都市の在宅高齢者と「老年公寓」に住む高齢者を対象に、都市における生活行動空間の構造及び居場所の分布と使われ方からそれらの相互関連を論じたものであり、今後急速な高齢化が予想される中国において都市の高齢者環境の在り方を明確にしたもので、その先見性と実効性に優れている。

よって本論文は博士（工学）の学位論文として合格と認められる